



緑風の子

梁瀬小学校だより

令和5年4月26日

校訓「明るく 強く 健やかに」

学校教育目標「いのち輝く梁瀬っ子の育成」

1年生も少しずつ生活に慣れてきています。 笑顔いっぱいです。

- ○1年生が入学して、2週間以上がたちました。 最初は、「大丈夫かな?」と不安も感じました が、今は、日に日に成長していく1年生の様子 を楽しみにしています。国語は、ひらがなの学 習を算数は、数字を音楽では、リズムに合わせ て踊るなど、学習に取り組んでいます。
- ○給食の当番活動も少しずつ少しずつ慣れてきて います。食べるのも残菜がないようにしっかり 食べています。もちろん給食着も自分たちでた たんでしまいます。すぐにできないこともたく さんあります。それでもがんばってしようとし ています。その姿勢を大切にしたいですね。
- ○1年生は、何事も習慣づけることが大切です。

学習は家庭でも習ったことを復習する習慣づけが大切になります。わ ずかな時間でもいいので、机に向かうことが大切です。習ったことを その日のうちにもう一度やってみることは、とても大切です。お家で もどんな学習をしたのか聞いてみて下さい。また、どんなことを学習





しているのか見てやってください。がんばっていたら、褒めてあげてください。やる気を持ってやろう としている時にしっかり習慣づけていくことが大切です。よろしくお願いします。

【○梁瀬小学校ではホームページで学校の様子をお知

見くにこりらせしております。「梁瀬小学校ホームペー ジ」を検索していただきますと「梁瀬小学校のホームページへようこそ」が出てきます。 「行事の様子」には、学校での様子を更新しています。また、月ごとの予定や学校運営 協議会の内容も掲載しております。忙しくてなかなか見る機会がないといわれる方も あろうかと思いますが、少しお時間があるときは、のぞいてみてください。学習で 使えるサイトやお知らせ等もありますので、是非ご活用ください。

「聞く力」から「聴く力」へ

- ○「勉強ができるようになりたい」とほとんどの子どもがそう思っています。勉強ができるようにな るために一番大切にしたい基本は「聞く力」をつけることだと思います。そして、「聞く力」から 「聴く力」へ成長していくことが大切です。
- ○「聞く力」と「聴く力」の違いですが、「聞く」は自然に耳に入ってくる。一般的に聞く場合は、 「聞く」を使いますが、「聴く」は注意深く、進んで耳を傾けて聴く場合に使います。例えば、人 と書きますが、音楽を聴く。講義を聴く。 と書きます。
- ○「聞く力」が大切なのは、先生から言われる説明をきちんと聞いておかないと理解しようにもでき ません。低学年では、「聞く力」をつけられれば、十分です。特に聞くときの「姿勢」が大切です。 低学年の授業を見ていると先生からも姿勢についてはよく言われています。「姿勢」をよくするこ とはとても大切なのですが、「姿勢」についてはまた別の機会に書くことにします。「聞く」とき には、そのことに集中して聞くことが大切です。誰かと話したり、別のことをしていると聞き漏ら すことが多くなります。一人一人の人が意識して、聞けば、自然と教室は静かになります。
- ○中学年くらいになると、「聞く」と「聴く」の違いを理解し、場面によって使い分けることができ るようになります。先生の説明や友達の発表は「聴く」方がいいですね。いわゆる「聞く力」から 「聴く力」を身につけるようにすることが大切ですね。

4月18日に全国学力・学習状況調査・学力標準テストを実施しました

- ○本校では、4・5年生を対象に学力標準テスト(国語)を4月18日(火)に実施しました。
- ○全国では、6年生を対象に全国学力・学習状況調査(国語・算数)を4月18日(火)に実施しました。 また、生活質問を4月14日(金)にオンライン回答で行いました。
- ○朝来市では、5年生を対象に学力標準テスト(算数・英語)を12月に実施します。
- ○体力測定テストを全学年、5月2日(火)に実施しました。
- ○全国学力・学習状況調査を行う目的としては、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その授業等の改善を図ることです。この調査で出た結果を分析し、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てていきます。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。(児童の課題を見つけたり、学力の定着度を検証し、授業の改善を図ったり、創意工夫に役立て、児童の意欲へと結びつけるサイクルを作り上げるため。)
- ○本校では、6年生だけでなく、「国語」に関しては、4年生から行い、発達段階での指導方法の改善に取り組んでいます。現在は、2年前から「国語」における「書く力」に課題が見られ、その向上を目指し、授業での指導法等の研修を進めています。この取組の中で、文で回答する問いに対して、「無回答」の児童が、少なくなってきているのが一つの効果といえます。さらなる向上を目指し、令和5年度も研修を進めていきます。
- ○測定や調査、テストを行うことで、児童たちの学力の定着度や体力の状況をしっかりと把握し、授業等の改善や工夫につなげていきます。よりわかりやすく、子どもたちの学びが楽しいと感じてもらえるように授業のあり方について考え、その基本となる課題の分析を行うためです。もちろん理解できていない点やつまずいているところが分かれば、指導しなければならない点も明確になります。
- ○採点し、分析後に児童にテストは返却します。そして、復習する教材として扱い、今後自分が自主学習をするときの参考にしたり、授業を受けるときにどのように受ければいいか等の参考にできればと活用していきます。また、様々な角度から自分の定着度を確認します。

- ○兵庫県教育委員会が推進している事業で、**兵庫型学習システム推進教員が配置されています。**梁瀬小学校でも2名の教員が配置され、学力向上に努めています。
 - これは、同室複数・指導、効果的な学習形態(少人数指導)など、個に応じた多様な教育を発展させ、 多くの教職員が児童生徒一人一人とかかわり、児童生徒の個性や能力の伸長と基礎学力の向上を図る きめ細かな指導を進めるシステムです。
- ○梁瀬小学校では、児童の実態や課題に応じて次の2つの教員配置を行い、取り組んでいます。
 - ①5・6年生の算数科において、少人数・指導(ハーフサイズ)や同室複数・指導(同じ教室に2名の教員が入り、一人が授業をメインで進め、もう一人が個々に対応する)を単元等で形態を考えながら授業を行っています。
 - さらに、高学年だけでなく3・4年生でも算数においては、複数体制で行っています。一人では、 個別への対応が、行き届かない点を補うことからも複数で対応することにより、よりきめ細やかな 指導体制で取り組んでいます。
 - ②また、指導が高度化する高学年における専科とし、教科担任制を導入しています。本校では、理科で行っています。中学年でもできる限り取り入れています。各教科で学級担任や学級担任外教員の得意教科を生かした授業の交換などを進め、きめ細やかな指導に努めています。このことにより、中学校での適応がスムーズになります。
- ○本校では、算数において「あさごがんばりタイム」として、1・2年生でも、一部複数体制で行ったり、放課後の補充体制も進めています。(この取組は6月より実施します)
- ○学級の実態や児童の学力状況等、常に担任と連携し、取り組みを 進めています。
- ○各ご家庭でも学校の様子を聞く機会を持ち、どのように授業が行われているか聞いてみてください。また、学校だよりでもできる 限り、学校の取組についてお知らせしていきたいと考えています。



※学校の様子は、梁瀬小学校ホームページ「行事の様子」でご覧いただけます。